

連載「わたしの福祉論」(98)
「阪神・淡路大震災から
十五年を迎えて」

神戸新聞 記者

磯 辺 康 子

□十五年で遠い過去に

六四三四人が亡くなった阪神・淡路大震災から今年で十五年が過ぎた。

一九九五年一月十七日。震災を体験した者にとっては忘れられない日だ。神戸にいれば、毎年その日、街は追悼の空気に包まれる。一月十七日が過ぎないと新年が明けたような気持ちにもならない。しかし、神戸を遠く離れた地で暮らすようになり、周囲の人があまりにもその日を普段と同じように過ごしていることに愕然とした。予定を聞かれて「十七日は神戸に帰らない」と言っても、ピンとこない様子の人もいる。

考えてみれば、私自身もそうだ。奥尻島などが大津波に見舞われた北海道南西沖地震(一九九三年七月十二日)は二三〇人もの死者・行方不明者を出した災害にもかかわらず、その日になって「ああ、そうだった」と思い出し、申し訳ない気持ちになることがある。関東大震災(一九二三年)のように、発生した九月

一日が「防災の日」になっている場合などはさすがに覚えているが、それほど知られている災害はほかにないだろう。六〇〇〇人を超す人が亡くなった大災害であっても、十年もすれば、多くの人にとっては、ある一地方の過去の出来事になってしまふ。この十五年、阪神・淡路大震災の被災者はその現実を思い知らされてきた。

□想像力を持つ

しかし、この地震大国・日本に住んでいる限り、だれもが阪神・淡路大震災のような災害の犠牲者になる可能性がある。ある日突然、家を失い、家族を失う。あらゆるものがあふれるこの国で、食べ物もなく、寒さに震える。停電で真っ暗になった街でテレビやネットの情報から遮断され、携帯電話も通じなくなる。場合によっては仕事も失う。そんな状況は、この国ならどの地域でも起こりうることだ。

阪神・淡路大震災を経験した者として伝えたいのは、そういうことを全く想定せずに六〇〇〇人を超える人を死なせてしまった私たちの愚かさだ。「神戸に地震はない」などという根拠のない通説

に疑問を抱きもせず、私たちは地震への備えを怠っていた。こんな「失敗」を、ほかの人々には繰り返さないでほしいと痛切に思う。せめて、そういうことが起こりうるという想像力だけは常に持っていてほしいと願う。

想像力を働かせれば、自分が被災したときの具体的な状況を少しは思い浮かべることができる。

阪神・淡路大震災を見ても分かるように、古い耐震基準(一九八一年五月以前)で建てられ、きちんとした維持管理をしていなかった住宅は壊れやすい。二階建ての一階部分が完全に押しつぶされることもあれば、家全体が跡形もなく崩壊することもある。新しい耐震基準であっても、きちんとした維持管理をしていない建物は弱い。そんな建物に住みながら非常持ち出し袋を用意して、果たして意味があるのだろうか。そもそも、住宅自体が凶器となつて命を奪われる可能性が高いのに、「生き残った後」を考えるのはおかしいのではないだろうか。

避難所生活を想像してみた場合はどうだろう。阪神・淡路大震災のときは、公共施設の避難所(時とともに待機所、旧待機所と名称を変えた)からすべての人が出て行くまで四年近くかかった。そ

活動の一環といたしまして使用済み切手・テレカの収集活動を行い、貴団体に寄附をさせていただくことにいたしました。

何かとお手数をおかけすることとなり大変恐縮ではございますが、少しでも社会福祉にお役に立てれば幸いです。

それでは、貴団体のこれからのますますのご活躍を組合員一同心よりお祈り申し上げます。

(奈良県 第一生命労働組合)

奈良営業職支部)

◇古切手集め

自分たちに行えることから

こんにちは。奈良県橿原市立大成中学校です。久しぶりに参加させていただきました。

私たちが最初に参加したのは二〇〇六年のことで、その時中一だった生徒たちが「障がい」をもつ人々に関することを学習した際、「自分たちにもできることを・・・」と始めたのがきっかけでした。その生徒たちも二〇〇九年三月に卒業し、しばらく参加できていなかったの

ですが、生徒たちの気持ちを受け継ぎ、コツコツ集めていました。今回ようやく送ることができ、うれしく思っています。少しですが、お役立てください。

(奈良県 橿原市立 大成中学校)

◇福祉委員会の呼びかけ

生徒の手紙を添えて

卒業のシーズンも終わりとともに、桜の季節となつてまいりました。

みなさまにおかれましては、ますますご発展のこととお喜び申し上げます。

さて、昨年度に続いて本年度も福祉委員会の呼びかけによって、一七〇名の全校生徒が、一年間かけて古切手を集めました。

手紙を書く機会が少なくなっている昨今、思うように集めることができなかつたので、大変わずかではありますが、生徒の手紙を添えて送らせていただきます。よろしくお願いします。

(三重県 四日市市立塩浜中学校)

福祉委員会)

◇みなさんの力になりたい 役に立てて

みなさん こんにちは

私たちは海西小学校の五年生です。私たちはみなさんの力になりたいと思い、ベルマーク・切手・プルタブを集めました。これいろいろな物を買う時に少しでもお役に立ててください。よろしく願いいたします。

それでは お元気で さようなら。

(岐阜県海津市立 海西小学校 五年生)

◇福祉人権委員会で収集

来年度もがんばる

こんにちは。今年度福祉人権委員会で集めた書き損じはがきと古切手を、送らせていただきます。

有効に活用していただければ幸いです。また次年度もがんばりますので、よろしく願いいたします。

(栃木県 上三川町立本郷中学校)

福祉人権委員会)

◇福祉委員会の呼びかけ

また来年度も

本校、多可町立中町南小学校では、福祉委員会の子どもたちが、毎年、古切手、